Cisco Mobility Express の内部 DHCP サーバの使用

リリース 8.3.102.0 から、内部 DHCP サーバを有効にして、アクセス ポイントおよび WLAN のスコープを作成できます。Cisco Mobility Express では合計 17 個の DHCP スコープがサポートされています。内部 DHCP サーバを使用すると、Cisco Mobility Express は外部 DHCP サーバを使わずにサイト サーベイを実行することもできます。

（注） 1 つの Mobility Express の導入で同時に内部 DHCP サーバと外部 DHCP サーバを使用することは、リリース 8.8 ではサポートされていません。

• DHCP スコープの作成 （1 ページ）

DHCP スコープの作成

内部 DHCP サーバを有効にし、Day 0 のセットアップ ウィザードおよび Day 1 のコントローラ WebUI を使って DHCP スコープを作成できます。通常、WLAN にスコープを関連付ける場合、Day1 のコントローラ WebUI を使って DHCP スコープを作成します。

コントローラ WebUI を使用して、スコープを作成し、WLAN に関連付けるには、以下の手順に従います。

手順

ステップ 1 [Wireless Settings] > [DHCP Server] > [Add new Pool] に移動します。[Add DHCP Pool] ウィンドウがポップアップ表示されます。

ステップ 2 [Add DHCP Pool] ウィンドウで、次のフィールドを入力します。

- WLAN のための **DHCP プール名**を入力します
- [Pool Status] を有効にします

- WLAN の **VLAN ID** を入力します
- DHCP クライアントの**リース期間**を入力します。デフォルトは 1 Day です
- **ネットワーク/マスク**を入力します
- DHCP プールの**開始 IP** を入力します
- DHCP プールの終了 IP を入力します

  （注） 集中型 NAT に接続するクライアント デバイス用のスコープの場合は、**デフォルト ゲートウェイ**として **Mobility Express コントローラ**を選択する必要があります

- DHCP プールのデフォルト ゲートウェイを入力します
- DHCP プールの**ゲートウェイ IP** を入力します
- DHCP プールの**ドメイン名**（オプション）を入力します
- **ネーム サーバ**のために、必要に応じて [User Defined] を選択し、ネーム サーバの IP アドレスを入力します。OpenDNS ネーム サーバの IP アドレスが自動的に入力されている場合は OpenDNS を選択します。

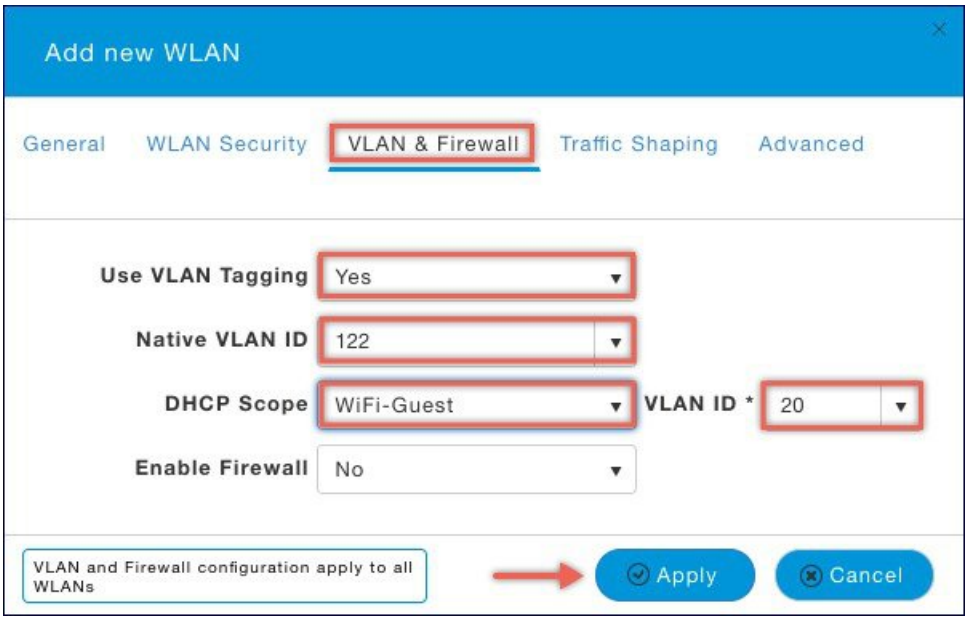
ステップ 3 [Apply] をクリックします。

ステップ 4 スコープを作成した後、DHCP スコープにマップされている VLAN を WLAN に割り当てます。WLAN に VLAN を割り当てるには、[Wireless Settings] > [WLANs] に移動します。

ステップ 5 WLAN が存在しない場合は WLAN を作成し、存在する場合は既存の WLAN を編集して、[VLAN and Firewall] タブをクリックします。

ステップ 6 [VLAN and Firewall] タブで、以下を設定します。

- このスコープが集中型 NAT の WLAN 用の場合、**クライアント IP 管理**または **Mobility Express コントローラ**のために [Network(Default)] を選択します
- [Use VLAN Tagging] で [Yes] を選択します。
- **ネイティブ VLAN ID** を入力します。
- WLAN のために以前に作成した **DHCP スコープ**を選択します。**VLAN ID** は、DHCP スコープを選択した後に自動的に入力されます。



ステップ 7 [Apply] をクリックします。